

精神病患者会を新しく作ることが出来るのかどうか、応えようと想って書きました。今のような世の中で、精神病患者会をドウしたら、ドウしたら新しく作ることが出来るのか、ドウしたら患者会をナントカナントカ残すことが出来るのか、その方法と手立てを、本当に現実的實際的に具体的に提案をするために書きました。真に患者会を残すこと、大部のレジユメを二通もこしらえたのは、えばっち自身があまりしゃべらなくてよい様にするためです。是非とも読んでいただければと想います。宜しく願いいたします。

作業所患者自治会 を目指してみませんか

精神病患者会を 『遺す』こと『残す』こと

作業所通所者自治会
デイケア通院者自治会
グループホーム入居者自治会
を目指してみませんか

拡く更に拡く、遠くへ更に遠くへ、深く更に深く

出来るだけ遠く、患者会のタネを撒きたいのです
出来るだけ拡く、患者会のタネを撒きたいのです
出来るだけ深く、患者会のタネを撒いておきたいのです

「遺し」「残す」サイゴの努力と言ったら良いのか。
それとも、

「残す」に集中した
出来るだけ遠くへ、出来るだけ拡く、出来るだけ深く、
サイゴのタネを撒きたい、、と言ったら良いのか。
そういうことなのです、、、
タネを撒いても、芽が出るかどうか、わかりません。
芽が出ても花が咲くかどうかわかりません。
芽が出て花が咲いても、実が成るかどうかわかりません。
そもそも、タネを撒こうとする試みがうまくいくかどうか、わかりません
それでも、
出来るだけ遠くまで、
出来るだけ拡く、とても拡く拡く、
出来るだけ深く、本当に深く深く

患者会のタネを撒くことは出来ないものかと想っています
さもないとさもないとさもないと、、、精神病患者会の歴史自体が、存在自体
が、ただ乗りされて乗っ取られて、挙句に、全く、無かったコトにされてしまう

では反共同作業所反デイケア反グループホームと云う旗
は降ろすのですか？

精神病院や作業所、デイケア等々を無くすんだと云う旗
は降ろすのですか？

そうです降ろしてもよいのです

反共同作業所反デイケア反グループホームのまま、
共同作業所自治会を目指すのは、
とてもとても、ゲンジツにはムリであるのならば、
大胆に降ろしてもよいのです
そしてそして、今まで対立してきたトコロともハナシをしてみ
たいと想うのです。

ゲンジツに実質的な患者会を『遺し』『残す』ことが最も大事な
ことですから「タネを撒いて」おきたいのですから、、

しかし、それでは患者会ではなくなるのでは？
患者会としては変質した姿では？
そうおそらく、問われるでしょう
だから「患者会とはナンなのダ」にまとめてみて
前進友の会の歴史を見直してみても
対立の歴史をも見直してみても、ハナシ合いを重ねながら、
「精神病患者会とはナンなのか、ナンでアツタのか、ナニでアロウとしたのか」
を見つめなおし、見直し、問い直すことが出来れば、
おのずから、判断出来るだろうと、、
だからそのために、今まで対立してきた古手のトコロの皆さんにも、
呼びかけをしたいなと想いました。
そして、チョットは少しは距離感がありながらも、長年にわたって
愉しく交流を重ねてきた作業所の皆さんと、
患者会にとっても近い取り組みをされていると、かねがね想ってきた、
確かにこれだけの取り組みをしていると云う
作業所やデイケアやグループホームの病者の皆さんに、
またスタッフの皆さんにも、集まって話をさせていただいて
参加された皆さんに提起してみたいのです
皆さんで判断してみてください
やりたいと思われたなら、やるべきだと思われたなら
是非とも挑戦してみてください

歴史に、マツウに遺せたなら、滅んで行っても良かったのです。でも、歴史
を意識的に歪めるヤツ等がまかり通るようになってしまったからです。恐ろし
いことだ。嘘だとわかっている、嘘をさも、真実のように言って、歴史自体を
歪めてしまう。そんなヤタラとヤカラな連中が、大手を振ってまかり通る世の
中に為ってしまったからです。だから、今まで、対立をしていたようなトコロとも
ハナシをしてみたいと、想います。

精神病患者会を『遺し』『残す』ために、ね、、、、
ゲンジツに根差しセーカツに根差し地を這うように活動をし続けてきたからこ
その、今のいま時にクルシみながらの決断なのです
原則と基盤の矛盾を矛盾として認めそのビミョーなセーカツの上にこそジツ
サイの患者会が成り立っていたからです
今やなかまたちが高齢化して、ドコも受け入れてくれず、結局は精神病院に
死にに帰って行くからです。生保を下げられ、今の世の中の実はナンの思い
入れもない儲け中心の株式会社や、まっこと貧困ビジネスそのモノへ、病者を
行政がベンリに振っていつているからです。だから、そんな砂漠のような地域
の福祉施設乱立の中で、退院しようとしても、アパートを探すのも難しく、グル
ープホームを探しているからです。ヘルパーと訪問看護を入れなければ、余り
に病気が重たくクスリも抜けず、それでもなお、自立して生きたいからです。生
き延びなければならぬからです。

弱いものは、集まらなければ生きられないからです。団結しなければ生き延
びられないからです。そしてジツサイにたくさんの病者が作業所やデイケア
に居場所として集まって生きているのなら、ソコを自分たちの居場所を、少し
でも、より少しでも、行きやすい生きやすい場にしていくためなら、通所者自身
の自治会が在って、ソコから発言して少しでも自らが行きやすい生きやすい場
にしていく取り組みがあって、しかるべきではないですか、それが通所者自治
会であり、それが、精神病患者会運動を『残せる』場であるならば、、、今や
いまや精神病院に入院どころか通院したこともなければクスリを飲んだことも
ないような、ドコが障害者なんやと云うような発達障害系健病者系活動家博
士者系の『無仁義アクジ犯』当事者為る者たちが跳梁跋扈する中で、おもた
い精神病患者やクスリを飲まざるを得ない病者を、精神病院に入院している
患者を馬鹿にし差別していく中で、少なくとも、作業所に通所しているんだ、デ
イケアに通院しているんだ、グループホームでセーカツしているんだ、と云
う、そう云う自覚を持った病者のみなさんが、持たざるを得なかった精神病患
者のみなさんが、まずは、ソコに居るのですから、、、たくさん居るんですか
ら、とてもとても大事なことです、そしてそれは、まず団結していけるキツカケ
に為るはずだと想ったからです。

今や、作業所とデイケアばかりに為ってしまった上に、余りに余りに酷過ぎる作業所が増えすぎ、特に自立支援法以降、余りに経営的で、余りに金儲け第一主義のなんの思い入れもない「株式会社」ミタイな作業所が山のようにでき、腐った若手「起業家」が「実業家」が、儲けるためだけに就労継続支援B型やA型をやり始め、思い入れのある古くからの作業所がツブレかけ、それは家族会系の作業所も含めて、思い入れのあるスタッフも、そして通所していた精神病者が本当に行き場を失い困っているからです。通所している病者がまるで、『家畜』のように、そういった作業所の経営者から扱われているからです。しかも儲からなくなったらいきなり倒産してしまう。あるいは、専門職等々の資格を持った起業家企業家の乗っ取りもアルからです

そもそも前進友の会がその長い歴史の中で、やすらぎの里共同作業所の設立母体運営主体でありつつも、ある時から、ジツサイのトコロ通所者自治会的側面も強くなってきたゲンジツもあるからです

発達障害概念が広まり『健病者』のような奴らが大手を振ってまかりとうり、おもたい精神病者がドンドンおいていかれるからです。少なくとも、「作業所通所者自治会」なら、精神病の作業所に通所せざるを得ない、あるいは通所したい、そう云う自覚を持った、あるいは、自覚を持たざるを得なかった病者が精神病患者がソコに居るはずなのです。それは、精神のデイケアもグループホームも、そうであろうと想います。『健病者』で一般就労出来る人々や、一人で活動出来る『健病者』は、おそらく、ココには、居ないはずなのです。どんなに頑張ったってクスリもゼロには、とてもじゃないがなり得ない、そしてそして、『一般就労』ナンてとても出来得ない、そんな病者が集まっているトコロ、そして、キーサンたる自覚が生まれざるを得ない、ソコの場所から出発するのです。

更に言えば、コンな言い方では、かえって失礼かもしれませんが、『作業所』や『デイケア』だけではない、そう、『サロン』と云う在り方にも、えぼっちは、期待を持っています。そうなのです。福祉的な就労モノの前に、集まれる場所があることは、いいことですよ。だから、ホンと病者が何人かで集まっているところなら、すべて、すべて、可能性を秘めています。そう、サロンの利用者自治会として意見を出しながら、サロンの食事会やレクを楽しむところから始め

ませんか。いや、「自治会」と云うコトバにこだわることも無いのだ。自然な流れの中で、月に一度でも、週に一度でも、時間をこしらえて、ミーティングでも試してみて、そのサロンでやってみたいことや、食べてみたいものや、行ってみたいところを自分たちで意見を出しあって、決めてみたらどうだろうか。自らの病気のことを語り合ってみたらどうだろうか。そのミーティングを「みんなの会の時間」とでも、言えばいいのだから、、、ソコにすこしだけ、ほんの少しだけ、『患者自身の自治』と云う『自分たちのことは自分たちで決めたい』と云う発想が生まれたり、はくぐまれたりしてはこないだろうか。ドウでしょうか。自治の難しさも、大事さも、そしてなにより、なかまとしての自覚も、キチガイとしての自覚も生まれてはこないでしょうか。試してみる価値はないのだろうか。ただ、『サロン』には、危うい一面もまたアルのようですが、、、期待を持ちたいのです。

今や「ごかい」が解散してしまい、いったい、「天上天下病者反撃」に一緒に書いたなかまの患者会で、残っているのはどのくらいアルのか。もうほとんどなくなってしまっているのではないか。いや、もうほとんどなくなっていました。寂しいです。笠陽一郎医師ですら、精神病患者ナンゾは居ない、居るのは発達障害者だけなのだ、と、言っているのですから。しかも、2018年春、対立してきた全国精神病患者集団すらが分裂し乗っ取られてしまったからです、対立してきた相手が、このようなカタチで分裂をしまいコンなヤラレようで乗っ取りにあうとは、、権力に売るような真似で掠め取られてしまうとは、、、酷いハナシです。

『見えにくいアクジ犯』どころか『掬り替えアクジ犯』どころか『無仁義アクジ犯』が、大手を振ってまかりとうり、嘘と悪にまみれたまるで、官僚のような書類ばかり造って、路線対立している相手を権力に売り渡す外道の所行により、たくさんのあまりにたくさんの、それは、我々が対立してきた皆さんの中にも、と云うか、その皆さんの中にこそ、今やたくさんのたくさんの、傷つき、泣き寝入りし、ムチャクチャされた病者やスタッフの皆さんが塗炭の苦しみに喘ぎ苦しみ抜いているのをキーサン革命の鬼えばっちが、見て見ぬ振りが出来なくなったからです

歴史的には、精神病院の入院患者自治会から、第一次患者会運動が始まった側面も強いからです

歴史的には、第二次患者会運動が消滅していく過程と、作業所デイケアが「精神福祉」が全国に広まっていく過程とか重なっているからですから、そこを逆手に取るのです

自立支援法が発達障害概念が、第二次患者会運動に止めを刺したからですから、そこを逆手に取るのです

おそらく、ゲンジツには、前進友の会のジッシツの活動は、就労継続支援B型共同作業所やすらぎの里を維持出来なくなった時に、終焉を迎えるだろうからです。

えぼっち、な——んや、そんなことは、うちはもうと——うのムカシに試したで、試して上手いかんかったんや、うまくいかんもんやで——と云う声が聞こえてきそうです。そうです、そう云う取り組みもあつたはずですが、そのうまくはいかなかった取り組みを教えてください、話してください。おそらくそれは、そう云う取り組みをしようとしていたトコロだからこそ、それは、きっと、スタッフ側はやる気だったのに、通所者側が、しんどくなっていったのでは、、、と想います。しんどくなって続かなかつたのでは、、、と想うのです。チガッていますか。そうそれが、患者会が消滅していった大きな大きな問題、課題だったのです。第二次患者会運動が、消滅していったのは、シッパイしていったのはおそらく、社会復帰路線の作業所やデイケア流行りだけの外的な状況だけではないのです。自治すると云うのは、恐ろしく手間隙も時間も金も労力も人力もタイヘンなのです。『自主自立自尊自衛自治』は、『民主主義』は、時間も手間もかかる、タイヘンな取り組みナンデスヨ、実は。そうだから、おもたい病者こそが、参加するのはタイヘンなコトなのです。なんでうまくいかなかつたのか、第二次患者会運動のすぼまりとともに、見直してみ、再度挑戦してみませんか

キチガイが生き延びるために絶対に必要なことなのです
精神病患者会を『遺したい』のです。精神病患者会が在って
在り続け活動をし続けてきたことを『遺す』ためです。
でもそれだけじゃあない、これからも、キチガイが生き延びる
ためです。患者会を『残したい』のです。『無仁義アクジ犯』と
闘うためです。この世の中で、精神病患者が生き延びるに

は、団結しなきゃなんないんですよ。しかも、歴史の中に『遺そう』としても『遺せない』、歴史を歪めてしまう『無仁義アクジ犯』が大手を振ってまかりとおる世の中になってしまった。だからこそ、通所者自治会を目指しながら、今度は、今まで対立してきたところとも、歴史的な振り返りと、総括をしながら、問い直しをしつつ、ハナシ合いの場を持てはしないかと、願っているのです。さもないと、ナニもかも消えて行ってしまい、なおかつ、真実が嘘にまみれ、そして歴史的には決定的に、歪められて行ってしまうからです、、、

患者会を『遺す』ために、書き続けてきました。書いて書いて書き続けてきました。叫びつつけてきました。資料を史料として遺そうとし続けてきました。ありがたい場も頂いてまいりました。これからも、『遺す』努力は、やり続けたいと想います。書き続けたいと想います。出来る限り。そして、もう一つの『残す』ためにそう、出来る限りジッサイ上のジッシツの上の

患者会を『残す』ために、一度試しに、共同作業所の通所者自治会を作ってみませんか、一度試しに、デイケアの通院患者自治会を作ってみませんか、具体的に提起しに来ました。そして、その実現のためなら、ドコへでも行きナンでもしようかなと、、、そう想うのです。

そして、その患者会を『遺す』『残す』サイゴの努力の、すなわち『無仁義アクジ犯』による大惨事大破綻を、歴史の改竄を許さない取り組みの中で、

今まで、歴史的に対立してきたところとも、ハナシをしてみたいと、そう想っているのです。ダメかなああああーオソスギタカナアアアー。さもないと、ナンにもなくなっていく。さもないと、歪められていく、とそう想います。だから、、、呼びかけたいと想っています。

患者会の活動の(2)をもう一度見てみてください

患者会の構成を見直してみてください

病者集団との対立を見直してみてください

患者会の歴史を見直してみてください

患者会のシッパイを見直してください

患者会の原則と基盤を見直してみてください

患者会の活動を見直してみてください

前進友の会やすらぎの里のジツサイのセーカツを見てください

ここに集まった作業所やたまり場の皆さんのシンポジストの皆さんのジツサイのセーカツを見てください、ハナシを聞いてください

もちろん、シッパイもアルはずです

もちろん、企業家起業家経営者に自治会が利用されることもアルはずです。『アライバイ作り』や『御用自治会』も生まれるでしょう。でも、それは、第二次患者会運動でもアツタことなのです。恐れることはありません、今共同作業所に通所している病者の皆さん、スタッフとして働いている思い入れのある皆さん、一度、通所者自治会を作ってみませんか。そして自分たちの場を、もっともっと住み心地良くしていくのです。それが自治と云うものです。でも、手間も人力もかかります。でも、生き延びるためには必要なことなんですよ。だって、適正手続化や第三者機関化や国家資格化がいくら進んだって、『権力』と『無仁義アクジ犯』にいいようにリヨウされたら、ドウ為るか、みんなソロソロ分かってきたはずです。『無仁義アクジ犯』はそれらをリヨウして逆に皆さんの居場所を、セーカツの場をツブシにかかってきたでしょう、唯一無二のなかまたちのセーカツの場を。もしかしてスタッフだけで対応しようとしませんでしたか。もし患者自治会がソコにあったら、、、通所者とスタッフとみんなで闘うのです、、いや一緒に闘えばソコには通所者自治会が出来ているも同然かもしれせん、、行政に対してもね、、しかも厚生省も学会も専門職も『自治会』ならハンタイは出来ないはず、なんといっても、ピアですから、、、なら、なら、なら、

キーサン革命の鬼は闘い続け叫び続けます

一度、共同作業所の通所者自治会を作ってみませんか

一度、デイケアの通院患者自治会を作ってみませんか

全国の就労継続支援B型作業所にもれなく、すべてに

通所者自治会を作りましょう

全国のデイケアにもれなく、すべてに

通院患者自治会を作りましょう

全国のグループホームにもれなく、すべてに
入居者自治会を作りましょう
ソコから見えて来るモノがあるはずです

全国に通所者患者自治会を
蔓延させてみませんか

2019年春4月15日に、一旦完成稿として
前進友の会 キーサン革命の鬼えぱっち 江端一起